

「*medicina*」第35巻 総目次

1998年 第1号～第13号

(数字は頁数, ()は号数を示す.)
11号は増刊号につき不掲載.

〔今月の主題〕

自己免疫性肝疾患の New Wave

〈ようこそ自己免疫性肝疾患へ〉

自己免疫性肝疾患とは何か …戸田剛太郎 6(1)

自己免疫性肝炎の診断と治療の基本
……………西岡 幹夫 13(1)

原発性胆汁性肝硬変の診断と治療の基本
……………柴田 実 20(1)

各種自己抗体の意義と用いかけた
小野塚 靖・米沢 仁・磯部 宣子 25(1)

肝組織像からみた自己免疫性肝疾患
平松 活志・原田 憲一・中沼 安二 31(1)

〈いま、そこにある自己免疫性肝疾患〉

〔診断の実際と臨床医の疑問点〕

非定型的な AIH をどう扱うか
……………宮川 浩 36(1)

保険診療を前提とした PBC の診断の進めかた
……………保坂 洋夫 42(1)

抗ミトコンドリア抗体陰性の PBC 疑診例をどう取り扱うか

北見 啓之・中嶋美香子・清水 秀剛 44(1)

早期 PBC の診断とその意義
……………柴田 実 47(1)

PBC と紛らわしい PSC(原発性硬化性胆管炎)をどう鑑別するか ……高取 正雄 50(1)

自己免疫性肝内胆汁うっ滞と薬物性肝障害の鑑別
……………溝口 靖紘 53(1)

自己免疫性肝疾患は病理組織でどこまで診断できるか ……内田 俊和 57(1)

自己免疫性肝疾患は腹腔鏡でどこまで診断できるか
渡辺 誠・赤木 収二・佐藤 秀一 60(1)

〔治療の実際と臨床医の疑問点〕

AIH の治療薬とその選択
池田 有成・佐藤 芳之・橋本 直明 62(1)

免疫抑制薬併用の是非と使いかた
……………山舗 昌由 68(1)

AIH に対する UDCA 療法
田中 廣壽・伊藤 正春・牧野 勲 71(1)

AIH における治療効果のモニタリングと薬物療法の調節 ……銭谷 幹男・戸田剛太郎 74(1)

肝硬変に進行した AIH をどう治療するか

……………山室 渡・住野 泰清 76(1)

HCV 抗体陽性の AIH をどう治療するか

……………岩渕 省吾 78(1)

PBC の治療薬とその選択

……………石橋 大海・高崎 智子 81(1)

無症候性 PBC の治療と予後

佐藤 明・末盛 彰一・鈴木 博 87(1)

UDCA 抵抗性の PBC をどう治療するか

……………高橋正一郎・伊東 友弘 90(1)

PBC にみられる食道静脈瘤の特徴と治療

……………國分 茂博・村上 匡人 93(1)

〈少し特殊な自己免疫性肝疾患〉

高齢者の AIH ……柳川 健 96(1)

小児の AIH ……伊藤 哲史・西岡 幹夫 98(1)

PBC 男性例

天木 秀一・茂木 積雄・荒川 泰行 102(1)

Autoimmune Cholangitis(AIC)は独立した疾患概念か

渡辺 勲史・加川 建弘・松崎 松平 105(1)

自己免疫性肝疾患における発癌の問題点

……………渋谷 明隆・田中 克明 108(1)

自己免疫性肝疾患と肝外合併症

……………井出 広幸 110(1)

自己免疫性疾患(特に膠原病)に伴う肝障害

箱崎 幸也・蕨 治言・松本 俊治 115(1)

自己免疫性肝疾患と劇症化 ……関山 和彦 118(1)

〈明日の自己免疫性肝疾患〉

発症機序はどこまで解明されたか

橋本 直明・潘 活寛・田中 篤 122(1)

最近話題の自己抗体と臨床応用への課題

……………森實 敏夫・常松 令 126(1)

新しい治療薬の将来展望 ……山田 春木 130(1)

自己免疫性肝疾患の肝移植

橋本 悦子・野口三四朗・林 直諒 132(1)

今月の主題・理解のための29題…………… 137(1)

解答…………… 159(1)

経静脈・経腸栄養療法のストラテジー

〈Introduction〉

栄養補充から疾病治療へ、そして……	松枝 啓 208(2)
＜栄養不良症の成因と疾病治療における重要性＞	
蛋白栄養不良症の病態生理 …松枝 啓 210(2)	
栄養評価法—初期評価から治療効果の評価まで	正田 良介 214(2)
入院患者での蛋白栄養不良症の頻度とその成因	福島 亮治 219(2)
蛋白栄養不良症と疾病予後—癌を例として	切塚 敬治・西崎 浩 222(2)
栄養不良症と免疫 ……木下 牧子 224(2)	
＜栄養療法時の基本的ルール＞	
電解質・水分投与量の算出	原 晶子・斉間 恵樹 228(2)
エネルギー投与量の算出—過栄養は悪影響を及ぼすか？	田代 亜彦・山森 秀夫・高木 一也 231(2)
窒素(アミノ酸)投与量の算出法	岩佐 正人 234(2)
脂肪投与—必要量の算定と投与法	福田 能啓・奥井 雅憲・下山 孝 238(2)
ビタミン投与量—経静脈栄養法とビタミンB群欠乏 ……岡田 正・垣田 晴樹 240(2)	
微量元素投与量—亜鉛、銅からセレンウム、モリブデンへ ……根津理一郎 244(2)	
＜投与方法の選択と投与の実際＞	
投与経路の選択—経腸栄養 vs 経静脈栄養(末梢および中心静脈) ……貝瀬 満 248(2)	
投与間隔の選択—持続 vs 間欠	秋山 純一 252(2)
内視鏡的胃瘻造設術 ……清水 利夫 256(2)	
＜合併症とその対策＞	
完全経静脈栄養法の外因性合併症—挿入時損傷および感染性合併症 ……田村 潤 260(2)	
完全経静脈栄養法の代謝性合併症—アシドーシス、高血糖、低リン血症など ……関川憲一郎 263(2)	
経腸栄養法の合併症と禁忌 ……森 一博 266(2)	
＜疾患特異的な栄養療法＞	
外科的手術患者	酒井 靖夫・畠山 勝義・佐藤 信昭 269(2)
熱傷患者	後藤 真弓・大友 康裕・辺見 弘 272(2)
腎不全患者 ……秋山由里香・斉間 恵樹 275(2)	
慢性呼吸不全患者	有岡 宏子・工藤宏一郎 278(2)
Crohn 病に対する経腸栄養 ……高添 正和 282(2)	
短腸症候群患者 ……福島 清乃 287(2)	
急性膵炎患者 ……上野 秀樹・白鳥 敬子 291(2)	
肝硬変症患者 ……正木 尚彦 295(2)	
神経疾患患者 ……目黒 謙一 299(2)	

癌患者	
星野恵津夫・茂木 秀人・鈴木 大介 302(2)	
高齢患者—在宅経腸栄養法について	津川 信彦 305(2)
＜栄養療法による疾病治療＞	
栄養としてのグルタミン	篠崎 大・斎藤 英昭・武藤徹一郎 309(2)
短鎖脂肪酸—大腸炎患者治療への応用は可能か？	佐々木雅也・岡本 敏彦・馬場 忠雄 312(2)
アルギニン—病態への関与と治療的利用の試み	大和 滋 317(2)
成長ホルモン—Crohn 病患者に合併する低身長への臨床応用の可能性	綾部 時芳・高後 裕 320(2)
＜経静脈栄養剤・経腸栄養剤の種類と特徴(付表)＞	
経静脈栄養剤の種類と特徴	藤田 健二・半田 智子 322(2)
経腸栄養剤の種類と特徴	半田 智子・藤田 健二 339(2)
今月の主題・理解のための 30 題 …… 353(2)	
解答 …… 406(2)	
内科医に必要な癌のマネジメント	
＜癌の予防方法とコントロール＞	
喫煙と飲酒と癌予防	谷口 志穂・篠原 聡・相澤 好治 414(3)
食生活と癌予防	菊地 正悟・黒澤美智子 417(3)
癌の遺伝学的コントロール—渡辺 決・三神 一哉・中川 修一・小島 宗門 420(3)	
＜癌のスクリーニング＞	
結腸・直腸癌のスクリーニング	小山 捷平 425(3)
前立腺癌のスクリーニング	小林 裕・徳江 章彦 428(3)
乳癌のスクリーニング ……雨宮 厚 432(3)	
子宮癌のスクリーニング	佐藤 健・利部 正博・中田 尋晶 436(3)
肺癌のスクリーニング ……佐藤 研 439(3)	
肝癌のスクリーニング	渋谷 明隆・里道 哲彦 443(3)
癌マーカーによるスクリーニング	安藤 真弘・渋谷 昌彦 446(3)
＜癌治療の基本ルール＞	
癌の基本的治療のルール	高見 昭良・中尾 眞二 449(3)
インフォームド・コンセントと告知	山本 和利 454(3)
＜抗癌剤による副作用のマネジメント＞	
骨髄抑制 ……猪野 裕英 457(3)	

口内炎	桑澤 隆補	460 (3)
嘔気・嘔吐	原 猛	462 (3)
下痢	内藤 雄二	465 (3)
肺臓炎		
日高 紀子・内丸 薫・谷口 俊恭		468 (3)
出血性膀胱炎		
浅野 友彦・早川 正道・中村 宏		472 (3)
抗癌剤の静脈からの漏出		
.....佐々木 純・加藤 淳		475 (3)
〈癌患者にみられる合併症のマネジメント〉		
感染症		
岡 三喜男・寺師 健二・河野 茂		479 (3)
出血傾向	前川 平	482 (3)
高カルシウム血症	岡崎 具樹	486 (3)
脊髄圧迫症候群	樋口 逸郎	490 (3)
腫瘍随伴神経症候群	星野 晴彦	495 (3)
悪性胸膜炎	中西 洋一	498 (3)
低栄養状態	松本 主之	501 (3)
〈癌患者の疼痛のマネジメント〉		
疼痛対策の ABC	加藤 実	504 (3)
〈癌患者の終末医療〉		
ホスピスの理念	柏木 哲夫	509 (3)
ホスピス・緩和ケア病棟と一般病院のパリアティブ ケアの比較—問題点とその考察		
.....木澤 義之・志真 泰夫		512 (3)
パリアティブケアに関わる諸問題		
.....石谷 邦彦		517 (3)
〈癌と遺伝子〉		
癌と遺伝子の関係はどこまでわかったか		
.....瀧本 将人		520 (3)
今月の主題・理解のための 28 題		525 (3)
解答		543 (3)

狭心症—日常臨床への Expertise

〈Introduction〉		
狭心症の病態生理と分類	斎藤 穎	594 (4)
〈狭心症の診断〉		
病歴からの臨床診断		
.....鈴木 知己・平盛 勝彦		598 (4)
運動負荷試験		
宗 武彦・武者 春樹・村山 正博		602 (4)
心筋シンチグラフィの適応, 有用性と問題点		
.....今井 嘉門		609 (4)
心エコー図はどのような場合に有用か		
.....渡辺 弘之・吉川 純一		612 (4)
ホルター心電図の適応とその判定		
.....谷川 直・小沢友紀雄		615 (4)
冠動脈造影(CAG)		
坂田 泰史・平山 篤志・児玉 和久		618 (4)

冠動脈病変の病理学的特徴		
小島 明子・小松 龍士・上田真喜子		622 (4)
〈狭心症の治療〉		
〔分類別の診断と治療法〕		
安定狭心症・不安定狭心症		
.....三須 一彦・住吉 徹哉		624 (4)
無症候性心筋虚血	岸田 浩	628 (4)
Microvascular angina	嶽山 陽一	631 (4)
異型狭心症	舟山 直樹	636 (4)
〔各種薬剤の使い方のこつ〕		
硝酸薬	遠山 慎一	641 (4)
β 遮断薬の使用法		
江本 浩・神田 秀彦・上松瀬勝男		644 (4)
カルシウム拮抗薬の使い分け		
.....山本 健・松崎 益徳		649 (4)
ニコランジルの抗狭心症作用とその使い方		
.....木之下正彦・中江 一郎		653 (4)
冠拡張薬の位置づけ		
佐々木暁彦・高沢 謙二・伊吹山千晴		656 (4)
抗血小板薬と抗凝固療法		
.....勝木 孝明・島田 和幸		659 (4)
〔高齢者ならびに合併症のある狭心症患者に対する 治療〕		
高脂血症を合併している狭心症の治療と注意点		
.....寺本 民生		663 (4)
高血圧を合併している狭心症の治療と注意点		
築山久一郎・関根 道和・常松 尚志		666 (4)
糖尿病を合併している狭心症の治療と注意点		
伴野 祥一・宇都木敏浩・河津 捷二		669 (4)
狭心症と不整脈—病態とその治療		
.....松下 健一・小川 聡		673 (4)
心不全を合併している狭心症の治療		
.....関戸 司久・高野 照夫		676 (4)
高齢者の狭心症患者の治療	坂井 誠	682 (4)
狭心症患者の noncardiac surgery における注意点		
.....柳瀬 治・本宮 武司		685 (4)
〔心筋梗塞の一次予防は可能か〕		
抗酸化薬による心筋梗塞の一次予防		
西田 昌司・葛谷 恒彦・堀 正二		690 (4)
〈冠動脈病変に対するインターベンション治療〉		
インターベンションの適応—どのような症例が内科 的に観察可能か		
.....坂本 貴昭・神原 啓文		692 (4)
冠動脈バイパス術適応例	土師 一夫	696 (4)
〈Lesion specific interventional therapy—どのよう な病変がふさわしいか〉		
New device 時代の POBA の適応病変		
.....許 永勝・玉井 秀男		701 (4)
DCA (方向性冠動脈アテレクトミー)		
.....相澤 忠範		704 (4)

Cutting Balloon™

……………鈴木 孝彦・鈴木 健	708(4)
ステント ……………角田 太郎・山口 徹	710(4)
Rotablator ……………延吉 正清	715(4)
再狭窄の定義と対策 ……………鈴木 紳	718(4)

〈最近の Topics〉

内視鏡・血管内エコーによる冠動脈病変の診断	
……………酒井 俊太・水野 杏一	723(4)
インターベンションにおける IVUS の役割	
……………本江 純子・斎藤 穎	728(4)
CABG の最近の話題—低侵襲冠動脈バイパス術 (MIDCAB) とレーザー心筋内血管新生術 (TMR)	
……………磯村 正・須磨 久善	731(4)
今月の主題・理解のための 34 題……………	735(4)
解答 ……………	796(4)

内科医がよく遭遇する血管疾患

〈イントロダクション〉

血管の解剖と病態	
……………錦見 尚道・櫻井 恒久・二村 雄次	804(5)
動脈硬化の成り立ち ……………森崎 信尋	809(5)
動脈疾患・静脈疾患の促進因子—外科の立場から	
……………増田 政久	812(5)

〈診断の基本〉

動脈疾患・静脈疾患の症候と理学所見のとり方	
……………平井 正文	815(5)
血管疾患の画像診断—超音波法	
……………加地修一郎・吉田 清	819(5)
血管疾患の画像診断—X 線 CT・MRI	
……………井上 寿久・渡辺 滋	823(5)
血管疾患の画像診断—血管造影	
……………栗林 幸夫	829(5)

〈治療の基本〉

血管疾患の薬物療法 ……………松尾 汎	834(5)
血管疾患の非薬物療法—Interventional therapy	
……………畠山 卓弥・重松 宏	838(5)
緊急治療を必要とする血管疾患と治療の実際	
……………佐久間まこと	843(5)

〈大動脈疾患〉

大動脈粥状硬化症	
……………星賀 正明・中小路隆裕・石原 正	848(5)
大動脈瘤 ……………安田 慶秀	850(5)
大動脈解離 ……………雨宮 邦子	855(5)

〈末梢動脈疾患〉

末梢動脈瘤 ……………山口 和男・竹内 栄二	860(5)
頸動脈の肥厚・狭窄	
……………中野 博司・清野 精彦	863(5)
急性動脈閉塞症	
……………武田 功・杉村修一郎	866(5)
閉塞性動脈硬化症 ……………林 富貴雄	869(5)

閉塞性血栓性血管炎

……………滝浪 實・数井 暉久	872(5)
Raynaud 病・Raynaud 症候群	
……………倉持 衛夫	875(5)
高血圧に関連する動脈疾患 ……………草野 英二	878(5)
特殊な動脈疾患	
……………高場 利博・成澤 隆	881(5)

〈静脈疾患〉

上大静脈症候群・下大静脈閉塞症	
……………島田 俊夫・吉富 裕之・清水 優美	884(5)
深部静脈血栓症・深部静脈血栓性静脈炎	
……………星野 俊一・小川 智弘	889(5)
静脈瘤 ……………江里 健輔・藤岡顕太郎	893(5)

〈肺血管疾患〉

肺動脈血栓塞栓症	
……………藤岡 博文・中野 赳	896(5)

〈血管炎症候群〉

高安動脈炎(大動脈炎症候群)	
……………小林 靖・金子 英司・沼野 藤夫	900(5)
側頭動脈炎 ……………鈴木 憲明・大田 明英	903(5)
結節性多発動脈炎	
……………竹内 健・橋本 博史	906(5)
膠原病随伴性の血管炎	
……………坂根 剛・鈴木 登	909(5)
中小動脈・細動脈の血管炎 ……………安倍 達	912(5)

〈リンパ管疾患〉

リンパ浮腫	
……………加藤 逸夫・北川 哲也・小川 佳宏	916(5)
今月の主題・理解のための 31 題……………	919(5)
解答 ……………	964(5)

カルシウム・骨代謝異常症と骨粗鬆症

〈Editorial〉

日常臨床におけるカルシウム・骨代謝異常症	
……………福本 誠二	976(6)

〈カルシウム・骨代謝異常症理解のための基礎知識〉

血中カルシウム濃度の調節系	
……………赤津 拓彦	978(6)
骨の構造と骨代謝の調節系 ……………川口 浩	982(6)
カルシウム代謝異常症への臨床的アプローチ	
……………滋野 長平	985(6)
骨量の評価法 ……………伊東 昌子	989(6)
骨代謝マーカーによる骨代謝動態の評価	
……………曾根 照喜	992(6)

〈高カルシウム血症〉

高カルシウム血症の発症機序と鑑別診断	
……………稲葉 雅章	996(6)
原発性副甲状腺機能亢進症 ……………杉本 利嗣	999(6)
悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症	
……………池田 恭治	1002(6)

多発性内分泌腺腫症	
櫻井 晃洋・藤森 実・橋爪 潔志	1006(6)
家族性低カルシウム尿性高カルシウム血症と新生児 重度副甲状腺機能亢進症	
会田 薫・多和田真人・女屋 敏正	1010(6)
高カルシウム血症の治療 ……高橋 俊二	1013(6)
〈低カルシウム血症〉	
低カルシウム血症の発症機序と鑑別診断	
……………田中 弘之	1016(6)
副甲状腺機能低下症 ……水梨 一利	1020(6)
二次性副甲状腺機能亢進症	
……………角田 隆俊・深川 雅史	1023(6)
低カルシウム血症の治療	
……………皆川 真規・安田 敏行	1026(6)
〈くる病・骨軟化症〉	
くる病、骨軟化症の発症機序、分類と診断	
……………山本 威久・岡田伸太郎	1029(6)
低リン血症性ビタミン D 抵抗性くる病	
……………長谷川行洋	1033(6)
腫瘍性骨軟化症 ……宮内 章光	1038(6)
ビタミン D 依存症 ……大藺 恵一	1042(6)
〈腎疾患と骨〉	
腎性骨異常栄養症の病態	
重松 隆・長谷川俊男・小此木英男	1047(6)
腎性骨異常栄養症の治療 ……塚本 雄介	1050(6)
〈骨粗鬆症〉	
骨粗鬆症の発症機序と診断 ……竹内 靖博	1055(6)
退行期骨粗鬆症の病因と病態	
……………岡崎 亮	1060(6)
続発性骨粗鬆症の病因と病態	
藤山 薫・江島 英理・桐山 健	1062(6)
骨粗鬆症の治療—総論 ……細井 孝之	1066(6)
骨粗鬆症の薬物療法—エストロゲン, SERM	
……………五来 逸雄	1070(6)
骨粗鬆症の薬物療法—ビスフォスフォネート	
……………井上 大輔	1075(6)
骨粗鬆症の薬物療法—活性型ビタミン D, カルシウム	
……………松山 敏勝	1078(6)
骨粗鬆症の薬物療法—カルシトニン, ビタミン K, イブリフラボン ……和田 誠基	1081(6)
〈トピックス〉	
遺伝子異常によるカルシウム・骨代謝異常症	
……………千勝 典子・福本 誠二	1085(6)
骨量を規定する遺伝子	
……………宮本 賢一・新井 英一	1088(6)
今月の主題・理解のための 33 題……………	1093(6)
解答 ……	1142(6)

腎・尿路系の問題とマネジメント

〈基本的診断法〉

尿検査 ……岡田 敏春・下條 文武	1150(7)
腎機能の評価法	
池辺 弥夏・野々口博史・富田 公夫	1156(7)
画像診断	
津ヶ谷正行・伊藤尊一郎・梅本 幸裕	1159(7)
腎生検 ……松村 治・御手洗哲也	1165(7)
〈腎障害患者の管理上の留意点〉	
腎疾患と食事療法	
……………田山 宏典・出浦 照國	1171(7)
薬物投与と輸液 ……鈴木 好夫	1174(7)
診断・外科的手技	
……………鍋島 邦浩・高山 公洋	1176(7)
腎不全・透析患者の外来でのマネジメント	
……………松山 公彦	1179(7)
腎移植患者の外来でのマネジメント	
……………吉村 了勇・岡 隆宏	1184(7)
〈外来でよく遭遇する腎・尿路系の問題のマネジメント〉	
外来で血尿を見たらどうするか	
……………菅原 壮一・高平 修二	1189(7)
外来で蛋白尿を見たらどうするか	
……………猪 芳亮・橋本 尚明	1192(7)
尿路感染症のマネジメント ……北原 光夫	1195(7)
前立腺肥大—内科外来でのマネジメント	
……………栗田 孝・西岡 伯	1198(7)
尿路結石のマネジメント ……矢後 雅子	1202(7)
外来で腎障害患者を見たらどうするか	
……………塚本 雄介	1205(7)
高齢者の尿失禁にどう対処するか	
……………福井準之助	1209(7)
尿路カテーテル—外来管理の問題点	
……………岡 裕也	1212(7)
〈入院患者でよく遭遇する腎・尿路系の問題のマネジメント〉	
急性腎不全への対処法	
花房 規男・浅野健一郎・深川 雅史	1216(7)
糸球体疾患をどう考えるか—尿所見からのアプローチ ……北島 武之・酒井 紀	1220(7)
尿細管間質性疾患の症状をどう考えるか	
……………佐野 元昭・守尾 一昭	1224(7)
尿毒症のマネジメント—急性合併症の評価法とマネジメント ……大澤 源吾	1228(7)
〈腎・尿路系疾患—最近のトピックス〉	
腎・尿路系疾患—最近のトピックス	
……………深川 雅史	1232(7)
〈腎・尿路系疾患の controversy〉	
簡易 Ccr による腎機能評価は正確か	
……………石田 博	1236(7)
糖尿病腎症に ACE 阻害剤(エナラプリル)は有用か	
……………吉岡 成人	1240(7)

ACE インヒビターは糖尿病以外の腎障害の進行予防に有効か	井村 洋 1244(7)
造影剤を腎障害に使用して安全か	名郷 直樹 1248(7)
NSAIDs を腎障害に使用して安全か	須藤 博 1251(7)
腎血管性高血圧をどのようなときに疑うか	尾藤 誠司 1254(7)
慢性腎炎(特に IgA 腎症)に対して抗血小板薬は有効か	八森 淳・吉村 学・五十嵐正紘 1259(7)
特発性ネフローゼ症候群治療に関する臨床決断分析	平 憲二・野口 善令・福井 次矢 1263(7)
運動制限は腎疾患の予後に影響するか	岡田 浩一 1266(7)
今月の主題・理解のための 27 題	1269(7)
解答	1299(7)

循環器疾患の低侵襲治療

〈Editorial〉

循環器疾患治療の低侵襲化	山口 徹 1332(8)
--------------	--------------

〈虚血性心疾患〉

虚血性心疾患に対するカテーテル治療の現状と問題点	鈴木 孝彦 1334(8)
新しい穿刺法によるカテーテル治療—transradial approach と brachial approach	落合 正彦 1337(8)
外来でのカテーテル診断とカテーテル治療	齋藤 滋 1341(8)
狭心症に対するバルーン冠動脈形成術(PTCA)	野口 輝夫・野々木・宏 1344(8)
狭心症に対するステント留置術	木村 剛・延吉 正清 1347(8)
狭心症に対するアテレクトミー	桐ヶ谷 肇・相澤 忠範 1351(8)
TMR と PMR(レーザー心筋血行再建術)	中村 正人 1354(8)
低侵襲冠動脈バイパス術(MID-CAB)	小池 茂文・大川 育秀・松本 興治 1357(8)
急性心筋梗塞に対する血栓溶解療法(IVT と ICT)	水村 恒雄・斎藤 穎 1360(8)
急性心筋梗塞に対する PTCA とステント	河越 卓司・佐藤 光・立石 博信 1364(8)
〈弁膜症〉	
弁膜症に対する低侵襲治療の現状と展望	田村 勤 1368(8)
僧帽弁狭窄に対する経皮経静脈的僧帽弁裂開術(PTMC)	永田 正毅 1371(8)
石灰化大動脈弁狭窄に対するバルーン弁形成術	玉井 秀男 1374(8)

心タンポナーデに対するドレナージと癒着術	樫田 光夫 1376(8)
弁置換術に代わる僧帽弁形成術	江石 清行・川副 浩平 1379(8)
低侵襲性人工弁置換術	川合 明彦・北村 昌也・小柳 仁 1383(8)
〈先天性心疾患〉	
先天性心疾患に対するカテーテル治療の現状と展望	越後 茂之 1387(8)
肺動脈弁狭窄, 末梢性肺動脈狭窄に対する弁形成術, 血管形成術	石沢 瞭・於保 信一・百々 秀心 1390(8)
経カテーテル心房中隔欠損閉鎖術(TASDC)	小林 俊樹・小池 一行 1394(8)
動脈管開存症に対するカテーテル閉鎖術	中西 敏雄 1398(8)
〈不整脈〉	
不整脈に対する低侵襲治療の現状と問題点	庄田 守男・笠貫 宏 1403(8)
上室性頻拍に対するカテーテルアブレーション	杉 薫 1406(8)
心室頻拍に対するカテーテルアブレーション	鷲塚 隆・相澤 義房 1409(8)
植込み型除細動器(ICD)	竹下 晃子・三田村秀雄 1412(8)
新しいペースメーカー	鈴木 章弘・山口 巖 1415(8)
〈心不全と心筋症〉	
心原性ショックに対する経皮的心肺補助(PCPS)	野田 聖一・明石 勝也 1419(8)
心室補助装置と人工心臓	西村 元延・松田 暉 1422(8)
心室縮小形成術(Batista 手術)	須磨 久善 1426(8)
閉塞性肥大型心筋症に対する中隔心筋アブレーション	高山 守正 1430(8)
〈大動脈疾患と末梢動脈疾患〉	
大動脈瘤に対するステントグラフト治療	石丸 新 1437(8)
閉塞性動脈硬化症(ASO)に対する経皮的血管形成術	長谷川市郎・成松 芳明・平松 京一 1440(8)
頸部頸動脈狭窄性病変に対するステント留置術	西崎 順也・山形 専・光藤 和明 1443(8)
動脈塞栓術	古井 滋 1448(8)
新しい穿刺部止血法	西田 隆寛・山口 徹 1451(8)
今月の主題・理解のための 32 題	1455(8)
解答	1494(8)

腹部エコー Today

〈腹部エコーを使うにあたって〉

アーチファクトの把握—偽物と本物の鑑賞眼のために……………東 義孝 1502(9)

腹部エコーの適用と位置づけ……………平田 経雄 1506(9)

腹部超音波検査のコツ

田中 幸子・押川 修・佐々木照子 1510(9)

〈腹腔内臓器における腹部エコー法の役割〉

肝細胞癌……………真島 康雄 1516(9)

転移性肝腫瘍……………坂口 正剛 1519(9)

肝内胆管癌

石田 秀明・小松田智也・長沼 裕子 1525(9)

肝血管腫

富山 剛・上野 規男・田野 茂夫 1529(9)

その他の肝腫瘍(肝膿瘍も含む)

竹内 和男・奥田 近夫・吉崎 秀夫 1532(9)

肝腫瘍の鑑別のポイント

林 仁守・小笠原鉄郎・山下 安夫 1536(9)

びまん性肝疾患

福田 浩之・江原 正明・税所 宏光 1540(9)

胆嚢, 胆管, 脾臓

泉里 友文・羽木 裕雄・跡見 裕 1546(9)

脾臓

堀口 祐爾・今井 英夫・鈴木 智博 1550(9)

腎臓

平井都始子・大石 元・打田日出夫 1555(9)

副腎

……………棚橋 善克・豊田 精一

喜屋武 淳・章 建全 1560(9)

後腹膜(リンパ節も含む)

柚木 雅至・國松奈津子・河野 敦 1564(9)

消化管腫瘍……………山中 恒夫 1567(9)

腸管の炎症性疾患(急性虫垂炎, 大腸憩室炎, 腸炎, Crohn 病など)……………湯浅 肇 1570(9)

女性骨盤腔……………作山 攜子 1580(9)

男性骨盤腔, 膀胱

……………飯田 明男・渡辺 決 1586(9)

〈症状に応じた腹部エコーの活用法〉

スクリーニング

小野寺博義・鶴飼 克明・鈴木 雅貴 1589(9)

黄疸……………佐藤 通洋 1592(9)

上腹部痛

静間 徹・唐澤 英偉・林 直諒 1596(9)

下腹部痛

秋本 伸・久保 博嗣・平野 進 1600(9)

腹水

宮本 幸夫・辻本 文雄・福田 国彦 1604(9)

腹部腫瘍

目崎 一成・西川 徹・久 直史 1606(9)

血尿……………金田 智 1608(9)

急性腹症……………入江 健夫・宮本 幸夫 1611(9)

〈腹部エコーテクノロジー Today〉

カラードブラ ……内藤久美子・伊藤 勝陽 1615(9)

パワードブラ法

佐々木勝己・西田 均・石井 誠 1618(9)

ハーモニックイメージングの展開

……………森安 史典 1622(9)

三次元表示……………中田 典生 1626(9)

今月の主題・理解のための 23 題…………… 1631(9)

解答…………… 1667(9)

膠原病・リウマチ性疾患

〈Overview〉

リウマチ性疾患の成因……………塩澤 俊一 1678(10)

〈リウマチ性疾患へのアプローチのしかた〉

関節のみかた……………高杉 潔 1681(10)

関節液の性状による疾患の鑑別

……………秋元 智博・小林 茂人 1684(10)

慢性関節リウマチの画像診断

……………上尾 豊二 1687(10)

リウマチ性疾患に現れる皮膚病変

……………福屋 崇・真鍋 俊明 1690(10)

〈リウマチ性疾患の血液検査〉

RA テスト結果をどう読むか

……………松本美富士 1694(10)

抗核抗体をどう読むか……………三森 経世 1697(10)

低補体血症……………鈴木 博史 1700(10)

P-ANCA と C-ANCA

上杉 裕子・尾崎 承一・中尾 一和 1702(10)

赤沈と CRP……………大西 利明 1704(10)

〈慢性関節リウマチ(RA)〉

慢性関節リウマチの臨床像……………竹内 勤 1709(10)

慢性関節リウマチと変形性関節症, 乾癬性関節炎の

鑑別……………井上 康二 1712(10)

慢性関節リウマチの治療—治療する時しない時

……………松多 邦雄 1715(10)

慢性関節リウマチと肺病変

藤村 直樹・長井 苑子・北市 正則 1721(10)

非ステロイド系抗炎症薬(NSAIDs)の使い方と副作用

……………山名 征三 1724(10)

〈全身性エリテマトーデス(SLE)と抗リン脂質抗体症候群〉

全身性エリテマトーデスの臨床像

……………小池 竜司 1728(10)

全身性エリテマトーデスの治療

……………縄田 泰史・高林克己 1731(10)

SLE 腎症……………遠藤 正之 1734(10)

抗リン脂質抗体症候群

竹内 理恵・渥美 達也・小池 隆夫 1736(10)

〈主な膠原病・結合組織病〉	
Sjögren 症候群	菅井 進 1741(10)
全身性強皮症	石川 治 1744(10)
多発性筋炎と皮膚筋炎	
今岡かおる・小林 祥泰	1746(10)
成人 Still 病	市川 幸延 1749(10)
混合性結合組織病(MCTD)とオーバーラップ症候群	
志水 正敏	1752(10)
〈血管炎〉	
血管炎の分類	簗田 清次 1756(10)
Wegener 肉芽腫症	
細川 貴規・西谷 皓次	1760(10)
結節性多発動脈炎(PAN)	八田 和大 1763(10)
巨細胞動脈炎とリウマチ性多発筋痛症	
城所 望	1767(10)
〈脊椎関節症〉	
強直性脊椎炎と反応性関節炎	
土屋 尚之	1771(10)
〈結晶誘発性関節症〉	
痛風の診断と治療	山中 寿 1774(10)
無症候性高尿酸血症—治療すべきか	
藤森 新	1777(10)
偽痛風[ピロリン酸カルシウム(CPPD)結晶沈着症]	
石川浩一郎	1780(10)
〈その他の重要な疾患〉	
反射性交感神経性ジストロフィーの診断と治療	
行岡 正雄	1785(10)
手根管症候群	生馬 敏行 1788(10)
〈随伴性のリウマチ〉	
内分泌疾患に伴うリウマチ病	
服部 輝彦・宮脇 昌二	1792(10)
悪性腫瘍に伴うリウマチ症状	
多田 芳史・長澤 浩平	1795(10)
〈新しい治療の展望〉	
抗サイトカイン療法	
石田 博・柳田 英寿・堤 健雄	1798(10)
γ-グロブリン大量静注(IVIG)療法	
針谷 正祥	1800(10)
〈内科医に必要な局所診断〉	
Common な肩関節痛	
西岡 淳一	1804(10)
腰痛—5 分間診察法	桃井 康晴 1806(10)
今月の主題・理解のための 36 題	1809(10)
解答	1847(10)

糖尿病の患者を受け持ったら

〈糖尿病の患者を受け持ったらどうアプローチするか〉	
糖尿病の分類と診断基準の新しい動き	
金澤 康德	1876(12)

病歴, 家族歴, 生活環境歴を治療にどう生かすか	
宮川 高一	1879(12)
糖尿病患者を把握する検査(合併症以外)	
柴 輝男	1883(12)
網膜症およびその他の眼疾患	
堀 貞夫	1886(12)
腎合併症を把握する	
羽田 勝計	1890(12)
神経障害・自律神経障害を把握する	
松岡 孝・姫井 孟	1895(12)
〈治療目標を患者と共有するための evidence〉	
比較的軽症の糖尿病へのアプローチ	
田中 逸	1898(12)
血糖コントロール目標の evidence—熊本スタディと DCCCT を患者に示す	
岸川 秀樹・和氣 仲庸・七里 元亮	1900(12)
高脂血症合併糖尿病のコントロール目標と evidence	
井上 郁夫・片山 茂裕・山田 信博	1903(12)
血糖自己測定がインスリン非使用者にも有効な evidence	
渥美 義仁	1906(12)
〈専門医の治療選択を生かす〉	
食事療法をどう説明するか	
梶沼 宏	1909(12)
NIDDM の経口薬による治療	
本田 律子・門脇 孝	1912(12)
NIDDM のインスリン療法—製剤・注射法をどう選ぶか	
丸山 道彦・田嶋 尚子	1915(12)
IDDM のインスリン療法—インスリンポンプ療法の適応と実際	
土田 健一・牧田 善二	1920(12)
Slowly progressive IDDM へのアプローチ—IDDM/NIDDM の判断に迷う例の治療	
小林 哲郎	1924(12)
遺伝子異常を疑う例へのクリニカルアプローチ	
綾目 秀夫・岡 芳知	1927(12)
ケトアシドーシスへの専門医アプローチ	
島田 朗	1930(12)
〈糖尿病の治療に困ったら〉	
栄養士が活用できないときの食事指導のポイント	
石井 昌俊・宮崎 滋	1933(12)
経口剤の併用のポイント	
穴井 元暢・菊池 方利	1938(12)
高齢者に対するインスリン療法	
中野 忠澄	1941(12)
低血糖の自覚症状が乏しいとき—無自覚性低血糖症の発症機構とその治療	
野中 共平・香野 修介・山田研太郎	1944(12)
IDDM で良いコントロールが得られないとき	
内潟 安子	1947(12)
アルコールが止められず困ったとき	
松下 幸生・樋口 進	1951(12)

ステロイド大量使用によるコントロールを急に依頼
されたら ……………吉岡 成人 1955(12)

臨床で問題になる血糖降下・上昇作用のある薬物
……………戸塚 康男 1958(12)

〈合併症にどう対応するか〉

腎症が進行した場合—いつ、どのように蛋白制限を
始めるか ……………李保 敦子 1963(12)

腎症が進行した場合—いつ、どのように ACI を始
めるか ……………宇都宮一典 1966(12)

視覚障害をきたした患者のケアと医療資源の活用
山田 幸男・平沢 由平・大石 正夫 1968(12)

足壊疽・潰瘍のケアと再発予防
……………新城 孝道 1970(12)

高血圧合併糖尿病における降圧剤の選択
……………林 道夫・藤田 敏郎 1973(12)

冠動脈疾患合併例へのアプローチ
……………中川 晋 1976(12)

〈患者教育への様々なアプローチ〉

糖尿病患者の指導に困ったら—心理的アプローチ
……………石井 均 1982(12)

患者教育に利用する教育資源
……………渥美 義仁 1985(12)

糖尿病患者のよりどころ—日本糖尿病協会への案内
……………後藤 由夫 1988(12)

〈対談〉

糖尿病の新しい患者指導—患者さんの行動変容を促
す臨床的アプローチ
……………渥美 義仁・石井 均 1993(12)

今月の主題・理解のための 32 題…………… 2003(12)

解答 …………… 2043(12)

内科 evidence は果たしてあるのか

〈evidence をどう探しどう読むか〉

非効率的な情報検索を行っていないか—evidence
の探しかたのコツ ……………名郷 直樹 2066(13)

evidence を何で見ているか ……………安藤 潔 2069(13)

evidence を科学的に評価しているか
……………山本 和利 2072(13)

〈evidence としての outcomes の評価〉

RCT は最高の evidence なのか
……………橋本 英樹 2076(13)

relative risk は絶対か ……………松村 真司 2080(13)

〈evidence はこう活用される—その理論から問題点
(限界)まで〉

evidence を比較する：メタアナリシス(meta-anal-
ysis) ……………野口 善令 2085(13)

医療決断分析-Outcome assessment はどのように
臨床決断に寄与するか
……………上村 隆元・Johanna L. Bosch 2090(13)

医療経済分析とその限界
笠島 茂・関根 道和・鏡森 定信 2096(13)

evidence をどう実践するか ……大生 定義 2102(13)

〈evidence に基づいた内科の問題解決〉

〔消化器〕

急性膵炎の治療法は何を選択すべきか
……………井出 広幸 2106(13)

大腸ポリープは切除すべきか
……………丸山 雅一 2110(13)

肝庇護薬は肝炎の治療に有用か
……………柴田 実 2115(13)

〔循環器〕

カルシウム拮抗薬の使用が高血圧患者の長期生命予
後に与える影響は ……………石川真一郎 2120(13)

急性心筋梗塞の血栓溶解療法に付加する薬物療法は
有効か ……………本宮 武司 2123(13)

喫煙は虚血性心疾患の危険因子か
……………石川 道郎・山口 徹 2126(13)

腸骨動脈閉塞症に対するステント留置療法と経皮的
血管形成術(PTA)との比較
……………Johanna L. Bosch・上村 隆元 2130(13)

〔感染症〕

抗菌薬の予防投与(SDD)について
……………大滝 美浩 2135(13)

真菌感染の診断法は有効なのか
……………海野 広道・山口 哲生 2138(13)

〔血液・腫瘍〕

慢性骨髄性白血病(CML)慢性期の治療—IFN α 療
法と造血幹細胞移植のタイミング
渡邊 茂樹・安藤 潔・堀田 知光 2142(13)

Low-Grade 悪性リンパ腫の治療のタイミングはい
つがよいか ……玉寄 兼治・押味 和夫 2149(13)

検診などで見つかる自覚症状のない白血球増多症に
どこまで精査する必要があるか
……………朴 載源 2154(13)

〔腎臓〕

尿中蛋白は腎障害を助長するか
……………大石 明 2159(13)

保存期腎不全患者の降圧療法
……………阿部 圭志 2164(13)

〔リウマチ〕

ループス腎炎の治療は何を選択すべきか
……………岡田 正人 2169(13)

慢性関節リウマチにメトトレキサートは何ミリグラ
ムまで使用すべきか、また定期肝生検は必要か
上野 征夫・山田 伸夫・横川 美樹 2172(13)

〔神経系〕

超急性期の脳梗塞に対する t-PA による血栓溶解療
法は有効か ……………峰松 一夫 2177(13)

急性期の脳梗塞に対する抗凝固療法と抗血小板療法
は有効か ……………内山真一郎 2180(13)

〔代謝・内分泌〕		
無症候性高尿酸血症もしくは数回の痛風発作のみの 高尿酸血症に尿酸降下療法は必要か ……………山中 寿	2186	(13)
Evidence-based な糖尿病の診断基準とは ……………松島 雅人・田嶋 尚子	2190	(13)
〔呼吸器〕		
市中肺炎・喀痰グラム染色に基づく抗生剤選択は治 療効果を高めるか ……………石田 直	2195	(13)
上気道感染症後の遷延する咳嗽に対する有効な薬物 療法 ……………岡野 良・倉富雄四郎	2198	(13)
〈対談〉		
EBM の導入と実践に向けて ……………福原 俊一・Julie Ellen Byles		
〔カラーグラフ 感染症グローバルゼーション〕		
10. 最近海外渡航者や外国人就労者にみられた経口感 染性蠕虫性疾患 ……………西山 利正・石田 高明	145	(1)
11. 最近増加している消化管条虫性疾患 ……………西山 利正・竹内 寛	363	(2)
12. 最近話題の美食・ゲテモノ食いによる寄生虫症— 幼虫移行症 ……………西山 利正	537	(3)
13. 糸状虫症 ……………西山 利正・神田 靖士	749	(4)
〔カラーグラフ 内科医が知っておきたい眼所見〕		
1. 糖尿病と眼(1) ……………北野 滋彦	1820	(10)
2. 糖尿病と眼(2) ……………北野 滋彦	2016	(12)
3. 眼瞼・結膜疾患 ……………内尾 英一	2222	(13)
〔目でみるトレーニング〕		
問題 143 ……………貞森 直樹	153	(1)
144 ……………長井 篤	154	(1)
145 ……………黒川 慶三	155	(1)
146 ……………貞森 直樹	371	(2)
147 ……………黒木 文敏	372	(2)
148 ……………吉田 和浩	373	(2)
149 ……………末兼 浩史	545	(3)
150 ……………西野 雅彦	546	(3)
151 ……………長井 篤	547	(3)
152 ……………貞森 直樹	757	(4)
153 ……………斎藤 司	758	(4)
154 ……………小堀陽一郎	759	(4)
155 ……………垂水 研一	929	(5)
156 ……………柏木 哲也	930	(5)
157 ……………草場亜矢子	931	(5)
158 ……………貞森 直樹	1103	(6)
159 ……………豊福 一朋	1104	(6)
160 ……………武田 昌治	1105	(6)
161 ……………柏木 哲也	1279	(7)

162 ……………黒木 文敏	1280	(7)
163 ……………水重 克文	1281	(7)
164 ……………舩形 尚	1479	(8)
165 ……………貞森 直樹	1480	(8)
166 ……………上村 陽子	1481	(8)
167 ……………田中 栄司	1637	(9)
168 ……………西江 温子	1638	(9)
169 ……………柏木 哲也	1639	(9)
170 ……………貞森 直樹	1825	(10)
171 ……………水重 克文	1826	(10)
172 ……………柏木 哲也	1827	(10)
173 ……………多田 慎也	2019	(12)
174 ……………吉澤 要	2020	(12)
175 ……………古城八寿子	2021	(12)
176 ……………川 茂幸	2225	(13)
177 ……………貞森 直樹	2226	(13)
178 ……………植田 孝	2227	(13)

〔演習・腹部 CT の読みかた〕

7. 上腹部痛で発症した 51 歳男性 ……………斎藤 拓郎・岩田 美郎	169	(1)
8. 黄疸を呈した 67 歳の男性 ……………斎藤 拓郎・岩田 美郎	553	(3)
9. 胸部異常陰影から精査となった 64 歳男性 ……………飯野美佐子・岩田 美郎	935	(5)
10. 低カリウム血症と高血圧で発症した 31 歳女性 ……………小林 利毅・岩田 美郎	1465	(8)
11. 心窩部鈍痛にて発症した 62 歳の男性 ……………小林 利毅・岩田 美郎	1849	(10)
12. 腹部膨満, 便柱狭小にて発症した 55 歳の女性 ……………那須 政司・岩田 美郎	2025	(12)
13. 腹部膨隆で来院した 59 歳の女性 ……………岩田 美郎・山下 詠子	2237	(13)

〔図解・病態のメカニズム 膵疾患〕

1. 膵外分泌調節 ……………宮坂 京子	161	(1)
2. 膵と臓器相関 池田みどり・白鳥 敬子	379	(2)
3. 急性膵炎重症化のメカニズム ……………山本 正博	533	(3)
4. 重症急性膵炎のマネジメント ……………田口 進・佐々木勝己 新川 淳一・天野 長久	745	(4)
5. アルコール性膵炎の病態と発生機序 ……………山口 泰三・大槻 眞	945	(5)
6. 膵炎修復の機序 ……………新川 淳一・佐藤 貴也 田口 進・三田村圭二	1111	(6)
7. 膵性糖尿病の病態 ……………中村 光男・梅田 芳彦 小川 吉司・山田 尚子	1275	(7)

8. 膵外分泌障害と消化吸収障害
.....近藤 孝晴 1475(8)
9. 慢性膵炎の治療
.....福屋 裕嗣・渡辺伸一郎
西野 隆義・小山 祐康 1647(9)
10. 膵癌—分子生物学からみた膵発癌および膵癌における化学療法の実況
.....船越 顕博・若杉 英之 1833(10)

〔図解・病態のメカニズム 胆道疾患〕

1. 胆汁分泌機構滝川 一 2011(12)
2. 色素胆石の成因—ビリルビンカルシウム石、黒色石伊勢 秀雄・内藤 剛 2233(13)

〔症例によるリハビリ医療—内科医のために〕

1. 脳卒中患者のリハビリテーション(その1)
.....長谷川 幹 765(4)
2. 脳卒中患者のリハビリテーション(その2)
.....林 拓男・丸山 典良 951(5)
3. 脳卒中患者のリハビリテーション(その3)
藤田 雅章・江崎 宏典・河合 正行 1117(6)
4. 脳卒中患者のリハビリテーション(その4)
.....伊佐地 隆・大仲 功一
安岡 利一・大田 仁史 1289(7)
5. 嚥下障害のリハビリテーション
林 拓男・丸山 典良・吉田 茂 1651(9)
6. 8年間外来・訪問フォローした多発性脳梗塞者のリハビリテーション長谷川 幹 1839(10)
7. 中枢性麻痺—痙縮への対処法(神経ブロックを中心に).....伊佐地 隆・大仲 功一
安岡 利一・大田 仁史 2247(13)

〔続・アメリカの医学教育—スタンフォード大学病院レジデント生活〕

1. スタンフォード大学病院赤津 晴子 777(4)
2. 初出勤赤津 晴子 965(5)
3. 当直勤務赤津 晴子 1125(6)
4. 現代アメリカにおける Good Doctor とは—Part 1: Compassionate Doctor 赤津 晴子 1295(7)
5. 現代アメリカにおける Good Doctor とは—Part 2: Competent Doctor赤津 晴子 1485(8)
6. CCU(冠動脈疾患集中治療室)
.....赤津 晴子 1657(9)
7. 一般内科外来赤津 晴子 1843(10)
8. 救急外来赤津 晴子 2039(12)
9. 集中治療室赤津 晴子 2255(13)

〔CHEC-TIE よい医師—患者関係づくりのために〕

13. 患者の受診理由が自覚症状でないとき
.....箕輪 良行・柏井 昭良 178(1)

14. 患者が鍼灸治療について相談してきたとき
.....箕輪 良行・柏井 昭良 402(2)
15. 共感を表現することの苦手な医学生
.....箕輪 良行・柏井 昭良 562(3)
16. 回診でのひと言が医師—患者関係に影響を与える
.....箕輪 良行・柏井 昭良 780(4)
17. MR の贈り物で患者の処方を変更した場合
.....箕輪 良行・柏井 昭良 960(5)
18. 頻回に転医している患者を救急でみたとき
.....箕輪 良行・柏井 昭良 1130(6)
19. 診察室と服装が医師—患者関係を変える
.....箕輪 良行・柏井 昭良 1300(7)
20. ゲートキーパー機能をもった主治医がない患者の場合箕輪 良行・柏井 昭良 1490(8)
21. ロールプレイから医師患者関係を見直す
.....箕輪 良行・柏井 昭良 1660(9)
22. 患者の提案してくる治療法が医師の方針と合わないとき箕輪 良行・柏井 昭良 1864(10)
23. 診療コストと検査の選択が医師—患者関係にかかわる箕輪 良行・柏井 昭良 2044(12)
24. 患者が気になっていた問題を洗いざらい話してきたとき箕輪 良行・柏井 昭良 2266(13)

〔Drug Information—副作用情報〕

22. 薬剤性血液障害(3)—赤血球障害・貧血(その1)
.....浜 六郎 181(1)
23. 薬剤性血液障害(4)—赤血球障害・貧血(その2)
.....浜 六郎 383(2)
24. トログリタゾン(ノスカル®)による肝臓死
.....浜 六郎 565(3)
25. 薬剤性血液障害(5)—血小板減少
.....浜 六郎 769(4)
26. ステロイド剤による大腿骨頭壊死
.....浜 六郎 957(5)
27. トログリタゾン(ノスカル®)の危険と利益のバランス(その2)浜 六郎 1133(6)
28. 薬剤性ショック(6)—喘息患者に生じたアナフィラキシー・ショック浜 六郎 1303(7)
29. エパルレスタットの危険と利益のバランス
.....浜 六郎 1663(9)
30. ステロイド離脱症候群としての偽リウマチ膠原病症候群浜 六郎 1859(10)
31. フルクトース, キシリトールの危険性—とくに糖尿病患者で危険が大浜 六郎 2035(12)
32. 低カリウム時のメトクロプラミド等投与と突然死
.....浜 六郎 2259(13)

〔医道そぞろ歩き—医学史の視点から〕

33. 臨床神経病学を築いたシャルコー
.....二宮 陸雄 186(1)

34. ブロカと大脳機能局在説 …二宮 陸雄 404(2)
35. パーコンの「学問の進歩」への道
……………二宮 陸雄 572(3)
36. 学生の権利を守るために生まれたボローニャ大学
……………二宮 陸雄 782(4)
37. パストールの不屈の批判的精神
……………二宮 陸雄 962(5)
38. 少年のような心をもった大化学者エールリッヒ
……………二宮 陸雄 1140(6)
39. 2000 年前のローマの医学派
……………二宮 陸雄 1308(7)
40. ローマ時代に対照試験を行ったガレノス
……………二宮 陸雄 1492(8)
41. 先入観を排除したマルピギーの腎糸球体
……………二宮 陸雄 1668(9)
42. 臓器から組織へと病気を追ったビシャ
……………二宮 陸雄 1866(10)
43. 強靱な意志を貫いた博物学者シーボルト
……………二宮 陸雄 2046(12)
44. 初めて胃ガンを手術した音楽家ビルロート
……………二宮 陸雄 2268(13)

[Scope]

- EBM (Evidence-based Medicine) による内科腫瘍学
……………勝俣 範之・渡辺 亨 577(3)

〔新春対談〕

- EBM 時代の内科診療
……………福井 次矢・上野 文昭 189(1)

〔medicina Conference〕

- (第 24 回) 胸部不快感・動悸・労作時呼吸困難を訴えた 48 歳の男性
山田 正和・井上 昌彦・永森 哲也
高橋 俊明・亀井 徹正 …………… 388(2)
- (第 25 回) レイノー現象と四肢近位筋痛を呈した 41 歳の女性
太田 策啓・白井 敏博・山本 晃士
吉原 修・真砂 玲治・福間 尚文
大野 竜三…………… 784(4)
- (第 26 回) 発熱、頭痛、意識障害を呈した 69 歳の男性
小山 茂・溝岡 雅文・朴 載源
徳田 安春・上野 文昭 …………… 1310(7)
- (第 27 回) 発熱、四肢の痛みを呈した 53 歳の男性
東 賢次・松井 邦彦・原田 直樹
早崎 知幸・石橋 大海 …………… 2048(12)